第３講
経済・工業

［第１章］ １人当たりGNI・GNI

地理には統計学の側面もあります。数値を解釈する数学的なセンスが必要となってくるのです。「実数」としての人口とGNI，「割合」としての１人当たりGNI。両者について理解し，地理的な思考を高めていきましょう。

＜１－１　１人当たりGNI＞

共通テストの考え方の基礎となるものが１人当たりGNIです。その概念を理解し，さらに具体的な数値も知っておきましょう。

◆　１人当たりGNI

→GNI(国民総所得)を人口で割った値。
→GNIの大きな国(アメリカ合衆国など)で高く，小さい国で低くなる傾向がある。
→人口の少ない国(北ヨーロッパなど)で高く，多い国で低くなる傾向がある。

take care!
実数ではなく割合(例えば理論上は，人口０人の国で１人当たりGNIは無限大となる)なので，モナコが１人当たりGNI世界１位であるというように，順位で覚えることに意味はない。ただし，下の表を参考に，それぞれの国の高低関係を覚えていってほしい。人口規模と短絡的に関連させてもいけない。例えば，人口規模は中国＞インド＞ベトナムだが，１人当たりGNIは中国＞ベトナム＞インドとなっている。ここではGNIの規模が重要となっている。

◆　１人当たりGNIの意味

→当該国の経済レベル，労働賃金や物価の水準の目安となる。
→単位は「ドル」だが，正確には「ドル／人」。
→１人当たりGNIの低い国から高い国へと出稼ぎ者が生じる。ブラジルから日本，メキシコからアメリカ合衆国など。

→１人当たりGNIの高い国から低い国へと工場が進出する。日本から中国や東南アジアなど。

> ***take care!***
> 日本の企業の海外進出（工場の移転）は，1980年代が韓国，1990年代から東南アジア（マレーシアやタイ），2000年代は中国が主だが，１人当たりGNIが低くなる方向に移動していることに注意。将来的にはさらに低いインドネシアやベトナム，バングラデシュなどに工場が新設されるだろう。

◆　先進国，NIEs（中進国），発展途上国

→１人当たりGNIの高低を目安として，25000ドル以上が先進国，１～２万ドル程度がNIEs（新興工業経済地域の略だが，実質的な中進国），数千ドル程度が発展途上国。

［１人当たりGNI］

おおまかな値	ヨーロッパの国々 ●・・・EU	それ以外の国々 ◎・・・ASEAN △・・・NAFTA ×・・・OPEC
70000＄／人～	スイス（80560） ノルウェー（75990） ●ルクセンブルク（70260）	
60000＄／人		カタール（61070） △アメリカ合衆国（58270）
55000＄／人	●デンマーク（55220）	◎シンガポール（54530）
50000＄／人	●スウェーデン（52590）	オーストラリア（51360）
45000＄／人	●オランダ（46180） ●ドイツ（43490）	ホンコン（43240） △カナダ（42870）
40000＄／人	●イギリス（40530） ●フランス（37970）	ニュージーランド（38970） 日本（38550） イスラエル（37270）
35000＄／人		
30000＄／人	●イタリア（31020）	×クウェート（31430） 韓国（28380）
25000＄／人	●スペイン（27180）	台湾（23284）

20000 $／人	●ポルトガル(19820) ●チェコ(18160)	×サウジアラビア(20080)
15000 $／人	●ハンガリー(12870) ●ポーランド(12710)	アルゼンチン(13040)
10000 $／人	●ルーマニア(9970) ロシア(9230)	トルコ(10930) ◎マレーシア(9650) 中国(8690) △メキシコ(8610) ブラジル(8580)
5000 $／人		◎タイ(5960) 南アフリカ共和国(5430) ×イラン(5400) ×アルジェリア(3960)
3000 $／人		◎フィリピン(3660) ◎インドネシア(3540) エジプト(3010)
2000 $／人		◎ベトナム(2170) ×ナイジェリア(2080) インド(1820) パキスタン(1580)
1000 $／人		ケニア(1440) バングラデシュ(1470) エチオピア(740)

統計年次は2017年(ホンコンと台湾は2016年)。『地理データファイル』,『データブック　オブ・ザ・ワールド』により作成。

単位は「$」が一般的だが，数値の意味を考え，本表では「$／人」を使用している。

<たつじん先生からのひとこと>

なかなか困った状況が生じてしまったのですよ。１人当たりGNIについては，ほとんどの国が毎年毎年少しずつ上昇し，その順番には変化はなかったのですが(あるいは，変化があったとしても問題を解く際には支障がない)，2010年統計において大きな変化が生じてしまいました。それが中国とタイの関係なのです。長く，中国は１人当たりGNIの低い国というキャラクターであり，日本企業の製造拠点も1990年代のマレーシアやタイから2000年代の中国というように明確な立地移動をしてきました。つまり「中国の１人当たりGNIは，マレーシアやタイより低い」という絶対的な約束事があったのです。

しかし，上の表をみたらわかりますよね。2010年の時点で，中国の値がタイ

を抜いてしまっているのです。これはややこしい。今後，共通テストの出題パターンも変わる可能性があります。ただ，この統計に沿う問題はまだ登場していないので，具体的にどういう形で問われるかはわかりません。来年度以降の共通テストに注目です。

よって，現時点においてはこのデータは気にする必要はないと思います。少なくとも過去問を解く場合には，「中国の１人当たりGNIは低い」と決めつけて解いてしまっていいと思います。上でも述べているように，日系企業の進出先は1990年代のタイから2000年代の中国へと変化したと覚えておいていいし，中国に出稼ぎにやって来る外国人労働者は存在しないと考えて構いません。中国の沿海部にやってくる出稼ぎ労働者の出身地は，同じ中国内のより貧困な内陸部なのです。

ただし，繰り返しいいますが，今後の出題パターンはどうなるかわかりません。そしてもちろん，今後の世界経済に与える影響もどれくらい大きなものになるかも想像できません。しかし，数値から考えるに，安価な労働力を求めるという意味では中国は魅力的な国ではなくなったのは間違いありません。より低賃金の労働力の得られる（１人当たりGNIの低い）フィリピンやベトナム，インドネシアなどが今後の日系企業の主な進出先になるであろうことは，十分に予想されます。

＜１－２　GNI＞

　１人当たりGNIと人口の積がGNIです。こちらは実数なので，その順位を知っておきましょう。

◆　GNI（国民総所得）

→経済規模。１人当たりGNIと人口の積。
→１位・アメリカ合衆国；60000（＄／人）×３億（人）
→２位・中国；10000（＄／人）×１４億（人）
→３位・日本；40000（＄／人）×1.25億（人）
→４位・ドイツ；45000（＄／人）×0.8億（人）
→以下，イギリス，フランス，インド，イタリア，ブラジル，カナダなど。

take care!
共通テストのレベルでは，GNI（国民総所得），GNP（国民総生産），GDP（国内総生産）は同じ意味と考える。

◆　GNIと関連する指標

→GNIはその国が持っている「お金」の量と考えていい。経済規模。
→GNIは，市場（マーケット）の規模，工業力（とくに自動車生産台数），エネルギー消費量，貿易額などと大まかに比例する。

◆　１人当たりGNIと関連する指標

→一方，１人当たりGNIは割合であり，やはり割合である指標との関連性が強い。ひとまず挙げておくが，これらについてはより深い理解が必要であり，例外も多いため，関連項目の学習の際にしっかり確認しよう。
→人口増加率；発展途上国は出生率が高く，人口増加率も高い。１人当たりGNIと反比例。
→幼年人口率；人口増加率の高い地域では幼年人口率も高い。１人当たりGNIと反比例。
→老年人口率；人口増加率の高い地域では老年人口率は低い。１人当たりGNIと比例。
→第１次産業就業者割合；第１次産業（農林水産業）は収益性が低く，所得水準も

低い。１人当たりGNIと反比例。

→都市人口割合；第１次産業就業者割合が高い国は相対的に農村人口が多く，都市人口率は低くなる。１人当たりGNIに比例。

take care!

上に挙げたものは例外が多いが，ほぼ例外なく１人当たりGNIと対応（反比例）する指標が乳幼児（０～５歳児）死亡率である。１人当たりGNIが低い国では乳幼児死亡率が高く，１人当たりGNIが高い国では乳幼児死亡率が低い。例えば日本とアフリカ諸国では10倍以上１人当たりGNIに違いがある（日本が高く，アフリカ諸国が低い）が，乳幼児死亡率もやはり10倍以上の差がある（日本が低く，アフリカ諸国が高い）。

<たつじん先生からのひとこと>

１人当たりGNIとGNIを混同する人が本当に多いのです。前者は割合，後者は実数になります。気をつけてくださいね。１人当たりGNIは人口に反比例し，GNIは人口に比例します。人口規模の大きな中国は，１人当たりGNIは低く，GNIは大きくなります。人口規模の小さい北ヨーロッパ諸国は，１人当たりGNIは高く，GNIは小さくなります。中国は賃金水準は低いものの，市場（マーケット）としては巨大なのです。北ヨーロッパ諸国は一人一人の所得は高いものの，国単位で見た場合，世界経済に及ぼす影響は小さいのです。

［第２章］工業

工業(製造業)について学習しましょう。工業製品の価格を決定する重要な要因に，労働コストと輸送コストがあります。「いかにして利益を上げるか」という観点から考えを進めましょう。

＜２－１　工業の種類＞

工業には多くの種類があり，いくつかの分類パターンがあります。

◆　軽工業・重工業

→軽工業；繊維工業，食品工業，窯業(セメント)など。高い技術水準を必要とせず，工業化初期の段階で発達する工業種。

→重工業；金属工業，化学工業，機械工業など。資本と技術が必要。工業化が進むと，軽工業から重工業の段階に移行する。

> ***take care!***
> イギリスではマンチェスターの綿工業，アメリカ合衆国でもボストンの綿工業など，いずれの国でも最初の工業化は繊維工業から興っている。日本でも高度経済成長期以前の工業の中心は綿織物や絹織物の繊維工業だった。

◆　労働集約型工業・資本集約型工業

→労働集約型工業；繊維工業，機械工業。労働力への依存が高い工業種。賃金水準の低い発展途上国に進出。

→資本集約型工業；鉄鋼業，石油化学工業，セメント工業。労働力への依存が低い工業種。巨大な工業施設が必要。

◆　労働集約型工業の立地

→単純労働力に依存する繊維工業の縫製部門や機械工業の組立部門は，低賃金労働力が豊富に得られる地域へ移動する。発展途上国。

→専門的な技術を必要とし，熟練労働力に依存する精密機械などは先進国に留まる。

take care!
国内でも東北地方や九州地方にしばしば機械工業が進出しているが，大都市圏に比べ賃金水準が低いことが理由の一つである。

◆　資本集約型工業の立地
→原料(鉄鉱石・石炭，原油)を海外からの輸入に依存する鉄鋼業や石油化学工業は臨海立地。
→原料(石灰石)が国内で自給されるセメント工業は原料立地。内陸部。

<たつじん先生からのひとこと>
労働集約型工業が海外に生産拠点を移すのに対し，資本集約型工業はあくまで国内に留まります。原料の石灰が国内自給できるセメント工業はもちろんですが，原料を輸入に依存する鉄鋼業や石油化学工業にしても，輸入に適した臨海部に立地移動をする傾向ははっきりしているものの，やはり国内での生産が中心になります。

<２−２　工業立地(１)>
様々な工業種の立地パターンを整理しましょう。

◆　鉄鋼業
→初期は原料立地だが，現在は臨海立地に移行。
→北海道や九州の炭田，岩手県の鉄山に隣接して製鉄所が設けられていたが，高度経済成長期に太平洋ベルト地帯の臨海部に鉄鋼業の中心が移動。大規模集約化で製鉄所の数自体は減少。

> ***take care!***
> 製鉄所の内陸部から臨海部への移動は世界的な傾向。
> 中国；アンシャン・ウーハン・パオトウ（いずれも鉄鉱石産地）→パオシャン（シャンハイ近郊）
> イギリス；バーミンガム（鉄鉱石・石炭産地）→カーディフ
> フランス；ロレーヌ（鉄鉱石産地）→ダンケルク
> アメリカ合衆国；ピッツバーグ（石炭産地）→スパローズポイント（ボルチモア）
> ドイツにおいても石炭産地に立地するルール工業地帯の鉄鋼業は近年伸び悩み，むしろ先端産業の集積がみられつつある。

◆　石油化学工業

→臨海立地。太平洋ベルト地帯に多くの石油化学コンビナート。

◆　機械工業

→労働力立地。安価な労働力の得られる地域。

> ***take care!***
> 国内における機械工業の立地は内陸型として覚えておこう。鉄鋼業や石油化学工業との対比。交通の便がよく，部品や労働力の移送に適する。安定した広い土地が得られる。周囲に関連工場（部品など）が立地しやすい。海からの潮風を避けられる，など多様な理由による。

◆　繊維工業

→労働集約型の軽工業であるので，国内の繊維工業は衰退。発展途上国に移動。
→ただし，国内の伝統的繊維産地では製品を高級化して対抗。京都市や北陸地方など。

◆　アルミニウム工業

→電力立地。安価で安定した電力の得られる水力発電所に近接して立地。
→アルミニウムの精錬には大量の電力が必要。ボーキサイト（$Al_2O_3 \cdot H_2O$）からアルミナ（Al_2O_3）を取り出し，電気分解することによってアルミニウム（Al）

が得られる。

→かつては安価な原油による火力発電によって盛んにアルミニウムが精錬されていたが，オイルショックによる原油価格高騰のため，それ以降日本国内のアルミニウム工業は急速に衰退した。

take care!

現在の日本の主なアルミニウム輸入先にロシアがある。シベリアのバイカル湖は世界で最も深い湖で豊富な水量を利用しての水力発電が盛ん。日本向けのアルミニウムの精錬が行われている。

◆　IC工業

→臨空港立地。九州の空港に近接してＩＣ・半導体の工場が。「シリコンアイランド」。

→ICは軽量高付加価値。重量に比べて製品価格が高い。航空機で輸送しても採算がとれる。

<たつじん先生からのひとこと>

1970年代に生じたオイルショックによって，日本の高度経済成長の時代は終わりを告げました。工業も，それまで急成長を続けてきた鉄鋼業や石油化学工業が停滞し，アルミニウム製錬業は急速に衰退しました。しかし，オイルショックを乗り越え，1980年代に世界のトップの座にまで上り詰めた工業種に自動車工業があります。小型で燃費が良く，さらに高性能である日本車はオイルショックの時代だからこそ世界中から支持され，1970年代にも生産が急増していくのです。

<２－３　工業立地（２）>

原料の重量と製品の重量に注目しましょう。輸送コストによって工場の立地パターンが変化します。

◆　重量減損型工業

→原料を製品に加工した際に，重量が減少し，輸送に適した状態となる工業種。セメント工業とパルプ工業。原料立地となる。

◆　セメント工業

→重量減損型工業であり，原料立地。

→国内で石灰岩は自給。石灰岩が採掘される内陸部に立地している。山口県（秋吉台），福岡県（平尾台）など。

◆　パルプ・紙工業

→木材をパルプに加工するパルプ工業は重量減損型工業であり，原料立地。北海道など。

→パルプを紙に加工する製紙工業は用水立地。製品処理用水として豊富な工業用水が必要となる。富士川流域の静岡県など。

take care!

工業用水を大量に必要とする工業種は鉄鋼業や石油化学工業であるが，用途は冷却水である。低湿な臨海部で地下水をくみ上げるため，地盤沈下が生じているところも。製紙工業は製品処理が目的であり，そのため水質汚濁の問題も生じている。

◆　ビール工業

→重量減損型工業の反対。原料の方が製品より輸送に適し，都市型工業となる。市場（消費地）立地。

take care!

ビール工業以外の都市型工業としては，印刷・出版，化粧品，注文服（オーダーメイド），菓子製造などがある。流行を反映し，情報を得やすいところに立地した方が有利な工業種が多い。

◆　食品工業

→大消費地である大都市圏で発達しやすいが，腐敗しやすい原料を加工する部門は農水産業の発達した地方に立地。缶詰工業など。

→東京付近や北海道，九州で盛ん。

＜たつじん先生からのひとこと＞

長野県が非常に重要となります。清潔な水や乾いた空気など精密機械工業に適した環境条件を持ち，時計の生産などが行われてきました。さらに現在はコンピュータ関係の工場も多く立地し，情報通信機械器具の出荷額は国内最大となっています。

<基本問題を解いてみましょう>

［１］　工業立地の問題です。

①；「アパレル」は衣服工業の一種ですが，ここでは「企画やデザイン」部門の立地条件になります。流行の発信地でこそ成り立つ産業でしょう。

②；ボーキサイトから取り出したアルミナ（酸化アルミニウム）を電気分解することでアルミニウムが製錬されます。大量の電力を必要とするため，アルミニウムは「電気の缶詰」とも呼ばれます。

③；電気機械工業は労働集約型です。組立部門は安価な労働力を求めて立地移動します。

④；ビール工業の原料は主に大麦です。大麦とビールとの輸送コストを比べてみましょう。

［２］　まず**カ**から。セメントの原料は石灰石です。重量減損型の工業です。ビール工業との対比で考えましょう。

さらに**キ**。ここでは「労働集約型工業」と「資本集約型工業」との対比が重要です。とくに「安価な労働費」とありますね。労働力に依存するからこそ，できるだけ安い労働コストを求めて立地移動するのです。

［３］

①；**問題［１］**でも取り上げられていますね。情報の集まる都市において有利となる業種です。

②；食品工業の立地について考えてみましょう。ビール工業のように都市型工業となるものもありますが，素材をできるだけ新鮮な状態で加工する必要がある品目についてはどうでしょう。

③；石油化学工業は資本集約型工業の一つです。原料をいかに確保するかが重要となります。

④；電気機械工業は労働集約型工業です。生産費に占める労働コストの割合が高い工業種です。

［４］　東北地方に工場が進出する事例が近年多くなっています。物価が安く安価な労働力が得られること，広い工業用地を確保しやすいこと，自動車道など交通

手段の整備が進んだこと，行政による支援などがその理由です。ただし，その業種は労働集約型工業に偏っており，鉄鋼業や石油化学工業など資本集約型工業は依然として太平洋ベルトの臨海部に集中していますよね。労働集約型工業と資本集約型工業との違いを考えてください。

［5］　文章全体を読まずともキーワードだけ拾っていけばいいですね。

①は「鉄鋼業」，③は「機械工業」，④は「石油化学工業」です。「近年の日本の内陸地域」にそぐわないものはどれでしょう。

なお，「製糸業」とは生糸をつくる工業であり，つまり絹織物ですね。生糸はかつて日本の主要輸出品目でしたが，現在は絹織物工業そのものが衰退しています。

［6］　高度経済成長期に日本の重工業化が進みました。太平洋ベルトの臨海部に製鉄所や石油化学コンビナートが新設され，輸入原料に依存した生産が主体となります。そうした資源は，主にオーストラリアや西アジアから輸入されていることを考えれば，自ずと解答は導かれますね。

［7］　誤文判定問題ですが，消去法で考えた方がいいかもしれません。正文を３つ探し出し，残った１つを誤りとしてください。

①；セメント工業は資本集約型工業の一つで原料の確保が重要となります。ただし，鉄鋼業や石油化学工業とは異なり，原料(石灰石)が国内で十分に産出されています。

②；アルミニウム製錬のためには大量の電力が必要となります。高度経済成長期の日本では原油が安価に輸入できたため，電力価格も安く，アルミニウムの製錬もコスト安でした。しかし，現在はどうでしょう？　日本の主要電源である火力発電は石油や石炭，天然ガスに依存していますが，そのため電力価格は以前より高くなっているはずです。なお，文章中の「国際競争力」とは要するに値段のことです。「国際競争力が低下」というのは高価格になってしまった(そのため，安い製品を供給する他の国に負けてしまう)ということです。

③；高度経済成長期に太平洋ベルト地帯の臨海部に新規に製鉄所が建設されました。しかし，その反面，それまでの原料地指向型の製鉄所についてはどうなったのでしょう？　北九州の八幡，岩手県の釜石などがその例です。また，近年は製鉄所の大規模化が進んでいます(銑鋼一貫工場)。生産性の低い製鉄所については廃止されていることを考えてみてください。

④；衣服製造業は労働集約型工業であり，とくに単純労働力に依存しています。こうした工業はどういった立地パターンを示すでしょう。

［８］　1990年代以降ということは新しい時期と考えてください。とはいえ，問題自体はオーソドックスと思います。

①；いわゆる情報産業はどういった立地傾向を示すでしょう。

②；出版業は情報や対面のやりとりが重要な業種です。

③；「現地生産」がポイントになっています。

④；製造業の流出による経済悪化が「産業の空洞化」と解釈してください。とくに単純労働に依存する工業種の場合，多くの雇用が存在しているわけで，それらがなくなることによって地域経済に与えらえるダメージは極めて大きくなります。

［中国における日本企業の工業生産］

・中国は，低い「１人当たりGNI」と巨大な「GNI」で特徴づけられる国である。

・１人当たりGNIが低い・・・安価な労働力を求めて衣類縫製や機械組立など単純労働に依存する労働集約型工業が進出。輸出を前提とした工業がみられる経済特区など。

・GNIが大きい・・・マーケット(国内市場)が大きいので，国内での販売を目的とした自動車工業が立地。現地生産。

・近年はペキンやシャンハイなど大都市周辺で先端産業の立地も。集積回路の生産やコンピュータ製造が行われ，日本企業との提携がみられる。

［９］　やや発展的な内容を含んだ問題になっていますが，じっくり考えれば必ず解答できると思います。都市型産業の特徴について考えてみましょう。

［10］　自動車工業のキーワードは現地生産ですね。1980年代に日本は世界最大の自動車生産国となりましたが，同時期にアメリカ合衆国への輸出も増加したため，貿易摩擦という国際問題を引き起こしました。さて，その解消のためにどういった方策が採られたでしょうか。

第３講　経済・工業（練習問題）

＜基本問題＞

［1］　工業立地に関することがらについて述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2016年度地理Ｂ本試験第2問問2）

① アパレル（服飾）製品の企画やデザインを行う事業所は，消費市場の情報を求めて大都市に立地する傾向がある。
② アルミニウム工業は，大量の電力が安価に得られる地域に立地する傾向がある。
③ 電気機械工業は，安価で大量に生産される製品ほど，豊富な労働力を求めて先進国以外の地域に立地する傾向がある。
④ ビール工業は，原料の大麦やホップが豊富に得られる農山村地域に立地する傾向がある。

［2］　次の文章は，工業の立地について述べたものである。文章中の空欄**カ**と**キ**に当てはまる語の正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ｂ本試験第3問問4）

工業の立地において重視されるものは，工業の種類によって異なる。例えば，セメント工業は輸送費を考慮して（　**カ**　）への近接性を重視して立地する傾向が強い。一方，労働集約型工業である（　**キ**　）は，安価な労働費を重視して立地する傾向が強い。

① **カ**　原料産地　**キ**　衣服製造業
② **カ**　原料産地　**キ**　石油化学工業
③ **カ**　消費市場　**キ**　衣服製造業
④ **カ**　消費市場　**キ**　石油化学工業

［３］　工業の立地について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2008年度地理Ｂ本試験第２問問６）

①　アパレル（衣服）産業のデザイン部門は，流行などに関する各種情報の収集が重要となるため，大都市に立地する傾向が強い。
②　魚介類を缶詰に加工する部門は，消費者の多い大都市やその周辺に立地する傾向が強い。
③　石油化学や石油精製部門は，原料となる石油の輸送に便利な臨海部に立地する傾向が強い。
④　電気製品の組立部門は，安価な労働力を得やすい地域に立地する傾向が強い。

［４］　ヒロミさんは，Ｑ市（編注；山形県）に工業団地が作られ，そこに電気機械工場が立地していることを知った。その立地条件を説明したものとして誤っているものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2001年度地理Ｂ本試験第５問問２）

①　大都市地域に比べて安価な労働力が存在すること。
②　道路や空港の整備によって交通条件が改善されたこと。
③　原料となる地下資源があること。
④　大都市地域に比べて工業用地の地価が安いこと。

［５］　カオルさんたちは，諏訪湖周辺に多くの工場が立地していることを知った。近年の日本の内陸地域における工業について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2004年度地理Ｂ本試験第５問問２）

①　周辺の山岳地域における水力発電所の整備によって，豊富な電力が得られるようになり，鉄鋼業の工場が多く立地している。
②　減反政策によって水田から桑畑への転換が進んで養蚕農家が増え，製糸業の工場が多く立地している。
③　高速道路網などの整備が行われた地域では，輸送の便が向上し，エレクトロニクス産業や機械工業などの工場が多く立地している。
④　インターネットの普及によって，内陸部でも海外市場に関する情報が得やすくなり，石油化学工業の工場が多く立地している。

［６］　石炭から石油へのエネルギー革命により，日本の高度経済成長期の工業地域に生じた変化について説明した次の文①～④のうちから，適当でないものを一つ選べ。（1998年度地理Ｂ追試験第１問問４）

①　日本海側では，臨海部に鉄鋼業地域が新たに形成された。
②　四大工業地帯のうち，北九州工業地帯の相対的地位が低下した。
③　大市場に近い臨海地域の工業化が進み，太平洋ベルトが形成された。
④　石油化学コンビナートを形成した地域で，急速に大気汚染が進んだ。

［７］ 1980年代後半以降における，日本の工業について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2002年度地理Ｂ本試験第2問問6)

① セメント製造業は，原料産地との結びつきが強いため，立地にほとんど変化はみられない。
② ボーキサイトを原料とするアルミニウム製錬業は，国際競争力が低下し，国内からほとんど姿を消した。
③ 製鉄業は，外国への輸出が増加したことにより，工場数が増えている。
④ 衣服製造業は，安価な労働力を求めて，海外にも展開している。

［８］ 1990年代以降における日本の産業の立地動向に関して述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

(2007年度地理Ｂ追試験第2問問4)

① ソフトウェア産業は，通信手段が高度に発達したため，大都市を離れて自然環境に恵まれた地方小都市に立地する傾向が強い。
② 出版業は，市場との結びつきが強いため，国内の大都市へ立地する傾向が続いている。
③ 自動車工業は，輸出環境の悪化や中国をはじめとする新たな市場の拡大とともに，海外での現地生産がすすんでいる。
④ 電機・電子部品製造業は，中国との競争が激しくなり，産業の空洞化が進行している地域もある。

［９］　日本における産業立地の特徴について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（1999年度地理Ｂ本試験第３問問６）

①　企業の本社のような高度な意思決定部門は，人と人とが直接対面することが重要なので，高度通信機器が普及しても大都市に立地する傾向が強い。
②　新製品の開発に不可欠な製造業の研究開発部門は，静かな環境が重要なので，自然環境に恵まれた山間部に立地する傾向が強い。
③　レストランやクリーニング店などのサービス業は，消費者との接触のしやすさが重要なので，全国的にみて，人口分布に応じて立地する傾向が強い。
④　広告業やコンサルタント業のようなサービス業は，主に企業を顧客とするので，それらが集まる大都市に立地する傾向が強い。

［10］　トモヨさんは，Ｘ市（編注；愛知県豊田市）にある自動車会社で聞き取り調査を行い，この会社は1980年代にアメリカ合衆国に工場を設置したことを知った。日本の自動車会社がアメリカ合衆国に工場を設置した理由を述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ａ追試験第３問問５）

①　アメリカ合衆国での現地生産を進めて，貿易摩擦を避けるため。
②　東南アジアにおける自動車需要の急増に対応するため。
③　日本国内で自動車部品の供給が不足したため。
④　ヨーロッパ向け自動車生産を増強するため。

＜発展問題＞

[11]　世界のコンピュータ産業について述べた文として誤っているものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（1999年度地理Ｂ本試験第3問問2）

① コンピュータ機器の製造では，台湾やシンガポールなどのアジアNIEsでの生産が増えている。

② 家庭用のゲームコンピュータの開発と販売では，日本が独占的な地位を築いている。

③ コンピュータのソフトウェアの中で最も重要な基本ソフトの特許と開発では，ドイツが独占的な地位にある。

④ コンピュータのソフトウェア開発は，労働集約的で製品の移送も容易なので，優秀な労働力が得られるインドや中国で近年生産が増えている。

[12]　アメリカ合衆国における工業について述べた次の文①～④のうちから，下線部が誤っているものを一つ選べ。（1997年度地理Ｂ本試験第3問問6）

① 五大湖周辺では，鉄鉱石と石炭を水運で結びつけ，鉄鋼業・自動車工業などが発達したが，近年では工業地域としての相対的地位は低下している。

② 大西洋岸では，印刷・食品・繊維工業などが古くから発達し，近年ではエレクトロニクス産業・石油関連工業が盛んである。

③ 南部では，安い土地と豊富な労働力を背景に開発が進められ，近年ではエレクトロニクス・航空機・宇宙産業などが発達している。

④ 太平洋岸では，鉄鋼業・繊維・農業機械工業などが発達し，近年では研究機関や先端技術産業の集積もみられる。

［13］　アメリカ合衆国の工業化について述べた文として誤っているものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2008年度地理Ａ本試験第3問問4）

① 19世紀には，鉄鉱石や石炭に恵まれた五大湖周辺で鉄鋼業が発達した。
② 第二次世界大戦前，低賃金労働者を確保しやすいサンベルトで，精密機械工業の進出が活発にみられた。
③ 1960年代以後，世界的な市場戦略をもつ自動車産業や石油化学工業などの企業が多国籍化している。
④ 今日では，情報技術やバイオテクノロジーなどの先端技術産業の成長によって，衰退していた工業都市のいくつかで再生がみられる。

［14］　シリコンバレーは，アメリカ合衆国を代表する産業集積地域として知られている。シリコンバレーについて述べた次の文章中の下線部①～④のうちから，適当でないものを一つ選べ。（2009年度地理Ｂ追試験第3問問5）

　サンフランシスコ近郊のサンノゼ周辺はシリコンバレーとよばれ，①電気機械・電子工業やソフトウェア産業が発達している。ここには，研究・開発を重視し②シリコンバレーで産出されるレアメタルや優秀な大学の人材を活用する数多くの企業が立地している。これらの企業は，さらに③世界中から流入する有能な研究者や技術者を雇用するとともに，④先端技術開発から製品製造に至るネットワークを形成し，成長してきた。

［15］　アメリカ合衆国の人々の生活は，高度に発達した工業によって支えられてきた。同国における工業発展の要因として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（2003年度地理Ａ追試験第2問問3）

① 基幹工業部門における国営企業の設立
② 合理的な大量生産方式の発達
③ 大学や研究所などの研究開発機関の整備
④ 豊富なエネルギー・鉱産資源の存在

［16］　韓国の経済状況の変化とその影響について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2009年度地理Ａ追試験第4問問4)

① 日韓基本条約の調印以降，日本との経済交流は活発になったが，日本との貿易では依然として赤字が続いている。
② 輸出指向の政策により，「ハンガン（漢江）の奇跡」とよばれる急速な経済成長を遂げてきた。
③ 農村開発を目的としたセマウル（新しい村）運動の結果，都市と農村との経済格差が解消された。
④ アジア通貨危機の影響を受け，一時的に深刻な経済危機に陥ったが，IMF（国際通貨基金）の支援などにより，経済状況は急速に回復した。

［17］　中国の工業化について述べた文として誤っているものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2007年度地理Ｂ本試験第2問問4)

① 1960年代後半から，文化大革命の影響が全国各地に広がり，その間の社会の混乱にともなって，工業生産は伸び悩んだ。
② 1980年代に入り，経済特区が沿岸部に指定され，外国企業の誘致による輸出指向型工業への転換がはかられた。
③ 1980年代後半には，余剰労働力を非農業部門で活用する郷鎮（ごうちん）企業が急増し，農村部に普及していった。
④ 2000年代に入り，政府は沿岸部との格差是正を目的に，西部大開発を推進した結果，内陸部では自国資本による先端技術産業の集積がすすんでいる。

[18]　インドの工業化について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2008年度地理Ｂ本試験第4問問4)

① イギリスの植民地時代には，財閥系の民族資本によって，綿工業や製鉄業などが発展した。
② イギリスからの独立直後は，輸出指向型の工業化がすすめられ，電気機械工業が発展した。
③ 1960年代後半ごろには，社会主義的な計画経済のもとでの経済発展が伸び悩みをみせ，鉄鋼生産なども停滞した。
④ 1990年代以降には，経済の自由化政策のもとで，コンピュータ関連産業が発展してきた。

[19]　1980年代以降の日本企業の海外進出について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2015年度地理Ａ本試験第2問問2)

① 安価で豊富な労働力を求めて，アジア各国で部品や製品の組立てを行う国際分業が進んだ。
② 世界的な金融センターを形成するため，金融業を中心としたサービス業が中国の経済特区に進出した。
③ 高い技術力をいかして，発展途上国でインフラ整備を請け負う建設業が増加した。
④ 貿易摩擦を契機として，アメリカ合衆国において自動車産業の現地生産が増加した。

[20]　日本企業の海外での活動状況について述べた文として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。(2010年度地理Ａ追試験第3問問7)

① 自動車メーカーは，自動車を現地で販売するために，ヨーロッパやアメリカ合衆国に組立工場を設立してきた。
② 食品メーカーは，牛乳を日本に輸入して販売するために，インドやアルゼンチンで大規模な牧場を経営してきた。
③ 鉄鋼メーカーは，原料を安定的に確保するために，オーストラリアやブラジルで鉱山の開発にかかわってきた。
④ 電機メーカーは，安価な労働力を利用して電気製品を製造するために，東南アジアや中国に工場を設立してきた。

第３講　経済・工業（練習問題解答）

＜基本問題＞

［１］正解；④

ビール工業は消費地指向型であり，市場(都市)に立地します。原料である大麦やホップが輸送しやすいのに対し，製品のビールは重量が増し，輸送がしにくいのです。なお。水については普遍原料(どこでも得られる)なので立地条件に影響しません。

［２］正解；①

カは「原料産地」です。セメント工業は重量減損型の工業であり，原料地を指向します。日本の場合，原料である石灰石は国内で豊富に産出されるので，石灰石産地である山口県などでセメント工業が盛んですね。

キは「衣服製造業」です。労働力に依存します。なお石油化学工業は資本集約型工業です。

［３］正解；②

魚介類を新鮮な状態で加工できるよう，生産地(この場合は漁港付近)に缶詰工業は立地します。

［４］正解；③

労働集約型工業ですので，原料の有無は関係ありません。資源が重要となるのは資本集約型工業ですね。

［５］正解；③

「鉄鋼業」と「石油化学工業」は臨海部に立地しますので，「内陸地域」には該当しません。また，「製糸業」は現在の日本では衰退しており，生糸・絹織物の生産量はごくわずかです。養蚕業も衰え，桑畑の面積も縮小しています(近年新しくなった地形図からは「桑畑」の土地利用記号がなくなりました)。残った③が正解となります。賃金や地価の安い地方へと機械工場が進出する例は多くみられます。

なお，ここでは「エレクトロニクス産業」にも注目してください。長野県の諏訪

湖周辺は戦前より時計やカメラなどの精密機械の生産が盛んな地域でした。現在はこの技術力が反映され，エレクトロニクス関係の情報機器などの生産が行われています。長野県は製造品出荷額等において，電子部品・デバイス・電子回路は全国１位，情報通信機械器具は全国２位の地位を占めています。

[6]正解；①

製鉄所が新設されたのは太平洋岸です。オーストラリアからの輸入に適しています。同じ臨海部とはいえ，日本海側には製鉄所は八幡製鉄所以外にみられません。

[7]正解；③

高度経済成長期に増加した日本の製鉄所でしたが，近年は大規模集約化が進み，特定の製鉄所へと生産が集中しています。生産性が低い小規模な製鉄所が閉鎖され，さらに旧来の原料地指向型の製鉄所（北九州の八幡，岩手県の釜石，北海道の室蘭）には生産を縮小するものもありました。

[8]正解；①

ソフトウェア産業は情報の集まる大都市周辺に立地します。大学や企業の研究施設との連携も重要です。

[9]正解；②

研究開発部門は情報が集まる大都市において成立することが一般的です。大都市圏の郊外に先端産業地区が形成されるケースが近年増えています。

①；企業オフィスや官公庁は対面での折衝が重要ですので，都心部に集積します。CBD（中心業務地区）ですね。

③；住民に対するサービス業は，住宅地に近接します。飲食店やクリーニング店が代表的なところです。

④；企業を顧客とするサービス業は，それらが集まる大都市に立地します。

[10]正解；①

1980年代に勃発した貿易摩擦（日本の輸出超，アメリカ合衆国の輸入超）の解消のため，日本企業はアメリカ合衆国に進出し，現地生産を始めました。現地で販売することを目的として生産活動を行います。

＜発展問題＞

[11] 正解；③

基本ソフトといえば，マックやウィンドウズに代表されるOSですよね。アップル本社がシリコンバレーに，マイクロソフト本社がシアトル近郊にあることからわかるように，これらOSの開発はアメリカ合衆国を中心に行われています。

①；この問題自体がやや古いのですが，20世紀後半よりアジアNIEsと呼ばれる国々で経済成長が始まり，とくに韓国と台湾では知識集約型産業の発達も顕著となりました。とくに台湾はコンピュータ部品の世界的な生産地の一つとして知られています。

②；任天堂やソニーなどゲーム機の開発と販売については日本が世界のトップに君臨していることは間違いないと思います。正文。ただし，今後は中国はじめ世界のいろいろな国のメーカーがゲーム開発においても主導的地位を占めるようになるでしょう。

④；発展途上国は一般的にソフトウェア開発は後手に回っているのですが，中国とインドは例外です。今や世界的なコンピュータ産業国として注目を集めています。

[12] 正解；④

古い工業地域と新しい工業地域を区分するのがコツです。アメリカ合衆国では，五大湖周辺と大西洋岸が古い工業地域に該当し，鉄鋼業や自動車工業を中心として20世紀前半の世界経済を支えました。これに対し，20世紀の後半にはサンベルトと呼ばれる北緯37度以南の地域，そして太平洋岸地域が新しい工業地域として発展し，航空機工業やハイテク産業の中心地が多く出現しました。

①；アメリカ合衆国の五大湖周辺は古い工業地域です。20世紀の前半に工業化がピークを迎え，鉄鋼のピッツバーグ，自動車のデトロイトなどが有名でしょうか。しかし，近年は重工業の不振により相対的な地位は低下しています。

②；メガロポリス（ボストン～ニューヨーク～ワシントンD.C.に至る巨帯都市群）を中心とした大西洋岸も古い工業地域の一部です。都市型工業の集積がみられ，軽工業も発達しました（ボストンの繊維工業など）。

③；「南部」とは，かつて綿花地帯として知られたアメリカ合衆国南東部です。ジョージア州からルイジアナ州など，さらにはフロリダ州やテキサス州まで含む場合

もあります。地図帳で確認しておくといいでしょう。

④；「太平洋岸」は新しい工業地域です。カリフォルニア州のシリコンバレーには研究機関や先端技術産業が集積します。しかし「鉄鋼業・繊維・農業機械工業」はどうでしょうか。これらはどちらかといえば，古い工業種ですね。上述しましたが，鉄鋼業や繊維工業の中心となる都市は東部の大西洋岸や五大湖周辺に位置しています。これが誤りですね。太平洋岸の主な工業都市には，シアトル（アルミニウム・航空機），ロサンゼルス（石油化学・航空機）があります。

[サンベルト]

・アメリカ合衆国の北緯37度以南の広い地域で，第二次世界大戦後に多くの企業が移転することで工業化が興った。

・地価が安く，労働者も豊富（北部の労働者は組織化されており，ストライキが頻繁に起こった），さらに温暖な気候にも恵まれ，原油を中心として資源産出も多いことがこの地域の成長につながった。

・ハイテク産業や航空機工業，宇宙産業，石油化学工業など「新しい工業種」が発達。

[13] 正解；②

問題 [12] と内容的に重なっているので，注意深く読めば必ず正解できると思います。新しい工業地域であるサンベルトが発展したのは，もちろん第二次世界大戦「後」ですね。精密機械がコンピュータなどハイテク産業を指すのならば，やはり第二次世界大戦前というのはおかしくなります。

①；五大湖西側の鉄鉱石（メサビ鉄山），アパラチア山脈の石炭を利用して，ピッツバーグなどに鉄鋼業が興りました。

③；20世紀後半より，企業は国境を超えた生産活動を活発化しています。多くの多国籍企業が生まれました。

④；ハイテク産業地区といえば，テキサス州のダラス（シリコンプレーン）やヒューストン（NASA），カリフォルニア州のシリコンバレーなど，サンベルトおよび太平洋岸地域を思い浮かべるとは思いますが，古い工業地域においても再開発によって知識集約型の工業が立地したところがあるのを知っておきましょう。ピッツバーグではかつての製鉄所跡地が先端産業地区として再開発され，バイオテクノロジーの拠点となっています。

[14] 正解；②

さらにアメリカ合衆国の工業です。カリフォルニア州の北部（太平洋岸全体で言えば，真ん中ぐらいですが）に入江があり，そこに港湾都市のサンフランシスコが接しています。その郊外にサンノゼという都市があり，シリコンバレーはその一帯です。近隣に名門大学があるバークレーも位置しています。間違っているのは選択肢②ですね。先端産業・知識集約型工業の立地のためには資源の存在は必要ではありません。「レアメタル」にしても，カリフォルニア州で産出されるわけでもありませんからね。

①，③，④の選択肢が正文であることはとくに問題ないと思います。アップル社はじめ様々なIT系の企業が本社を置き，インターネット世界の中心地となっています。

[レアメタル産出国]

産出量が少ない，あるいは産出地域が偏っていることなどにより希少価値の高い鉱物資源をレアメタルといい，先端産業には欠かせないものとなっている。センター試験で出題されたことのあるレアメタルとしては，ニッケルとクロムがあり，いずれも合金として電子部品に利用されている。ニッケルの産出地としてニューカレドニア島があり，クロムの主な産出地としては南アフリカ共和国やカザフスタンがある。

[15] 正解；①

もう一つアメリカ合衆国ですが，これは工業の問題というより経済の問題かな。経済の原則として「国営→民営」の変化がありますよね。中国がわかりやすいと思いますが，社会主義国である中国ではかつては国営企業が主体となり経済活動が行われてきました。しかし，市場経済化が導入されると，外国企業を含めた民間企業の力が大きくなり，現在の高い経済成長を支えています。

アメリカ合衆国はそもそもが資本主義国です。国営企業があったとしてもその割合はわずかだったでしょう。民間企業の活力によって経済活動がリードされてきたはずです。①の「国営企業」が誤りですね。上述のように国営企業は社会主義の，しかも古い時代のキーワードです。アメリカ合衆国にはふさわしくありません。

選択肢②と③については問題ないでしょう。多くの企業は多国籍化し，その規

模を拡大させています。また大学などと結びつき，ボストン（ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学があります），サンノゼ（バークレー大学が近いです）などハイテク産業地域がいくつも生まれました。選択肢④についても正文であることを確認しておいてください。**問題［14］**で，ハイテク産業とレアメタルの産出は結びつかないといいましたが，それ以外の鉱産資源に関しては豊富な産出量を誇り，石油化学工業など各種工業を発展させる要因となっています。メキシコ湾岸油田の原油や天然ガスにより，ヒューストンやニューオーリンズでは精油や化学工業が発達しています。

［16］正解；③

こちらも経済の問題ですね。高度に資本主義化した現代の世界において，経済格差が縮小することはありえません。とくに都市と農村の間においてはそれが顕著であり，人口と産業が集積する都市において経済発展がみられる一方で，農村は貧困地域として取り残されます。選択肢③が誤りです。

韓国の工業化と経済成長についてまとめておきましょう。

①；日本の植民地だった朝鮮半島は，資本主義国の韓国と社会主義国の北朝鮮に分離して独立しました。朝鮮戦争を経て，1960年代には日韓基本条約を締結し，近代国家へと一歩を踏み出しました。

韓国は極めて貿易依存度（GNIに対する貿易額の比率）が高い国です。貿易額が大きいというより，GNIが小さいともいえるのですが，対日貿易については韓国の輸入超（赤字），日本の輸出超（黒字）となっています。日本は，中国および資源国（インドネシア，OPEC諸国，オーストラリアなど）に対する貿易は赤字ですが，それ以外の地域に対する貿易は黒字となっているのです。

②；韓国の高度経済成長は1980年代が中心です。1988年にソウルで五輪が開催されたのはその象徴的な出来事ですね。人口が都市に集まり，商工業が発達し，経済規模が拡大しました。韓国はアジアNIEsの一つに数えられ，この時期の経済成長をソウルを流れる河川の名をとって「ハンガン（漢江）の奇跡」といいます。

③；ハンガンの奇跡に先立つ1970年代，農村において農業の合理化を目指す活動が行われ，これを「セマウル運動」といいます。生産性の向上により農作物の増産がなされましたが，同時に省力化も行われ，農村に多くの余剰労働力が生まれました。彼らの多くは都市へと流れ，1980年代に活性化する商工業を支える基礎となりました。都市部では高い経済成長がみられ，農村との格差は拡大

します。

④；アジア通貨危機などにより韓国経済は破綻します。国連の機関（IMF）の保護下に入り，一時の窮地を脱し，韓国経済は回復しました。

なお，②で「輸出指向」という言葉が登場していますので，意味を確認しましょう。

[輸入代替型工業から輸出指向型工業へ]

・輸出指向型・・・輸出することを前提として工業生産が行われる。軽工業から重工業へと転換する。

・輸入代替型・・・発展途上国において，それまで輸入に依存していた工業製品について，国内で生産が行われる。主に衣類など軽工業製品。

絶対的なベクトルの向きとして，「輸入代替型工業→輸出指向型工業」となる（逆はありえない）

国内市場の小さいアジアNIEsや東南アジアの国々では，早い段階から輸出指向型工業へと転換した。

国内市場の大きいインドやブラジルでは政府によって輸入代替型の工業政策が行われてきたが，市場開放などにより近年は輸出指向型工業へと転換している。

[17] 正解；④

中国経済の特徴（というか問題点）として，沿海部と内陸部との格差があります。外国からの投資が積極的になされる沿海部では高い経済成長がみられるのに対し，内陸部は旧態依然の国営企業も多く，経済的には停滞しています。仕事を求めて沿海部の街へと出稼ぎに出る内陸部出身者も多くなっています。政府としては内陸部の開発も積極的に行いますし（西部大開発），戸籍や社会保障などの制限を設け村から都市への出稼ぎの数を抑えようとします。しかし，そうした法制も効果は薄く，沿海部と内陸部の格差は拡大し，労働者の移動もさらに顕著なものとなっているのです。

そういった状況の中，内陸部に「先端技術産業の集積」が進むでしょうか。もちろん，これが誤りですね。ペキンやシャンハイ，ホンコンなど沿海部の大都市の周辺には先端産業地区が形成され，世界的な知識集約型工業の中心地となりつつあります（＊）が，内陸部は依然として軽工業や機械組み立て工業のような労働集

約型工業が主となっているのです。また，最近は「自国資本」の企業も増えてきたとはいえ（ただしそれらは国営ではありません。あくまで中国の資本家による民間企業です），先進国に本社を持つ多国籍企業が中心となり，そういった先端産業をリードしています。自国資本の部分についても誤りとみていいと思います。

他の選択肢は正文です。内容をチェックしましょう。

①；かつて文化大革命という急進的な社会主義運動が行われました。詳細は知らなくていいと思います。

②；これは大事。1980年代という年代も覚えておいてください。５つの経済特区が華南地域（台湾が近接し，ホンコンが含まれる）の沿岸部に指定され，税制上の優遇措置などにより外国企業が誘致されました。経済特区では，輸出を前提とした繊維や機械などの生産が行われ，以後の経済成長につながっていきます。「輸出指向型」とみていいでしょう。

③；1980年代の改革開放政策（経済特区の設置もこの一環です）により市場経済化が導入され，郷鎮企業という主に民間によって経営される企業が増えてきました。主に沿海部に位置する富裕な農村において組織され，繊維製品や日用雑貨など軽工業製品が生産されるようになりました。

（＊）かつてセンター試験では集積回路・半導体の生産がこれら大都市で多いというトピックが出題されました。日本では「軽量高付加価値」であるこれら電子部品については九州など遠隔地で生産されることも多いのですが，中国の場合は大都市周辺に集中しています。

[18] 正解；②

問題 [17] でも登場していますね，「輸出指向型」という言葉。経済発展により，工業は輸入代替型から輸出指向型へと変化するんでしたよね。さて，どうでしょう。インドがイギリスから独立したのは古い時代と思われます（参考までに，第二次世界大戦直後の1948年に，インドとパキスタンが同時に独立しています）。そのような時代のインドで「輸出指向型」の工業が成立していたとは思えません。というか，そもそも工業化自体が遅れていたはずですよね。②が誤りです。

①；独立以前の状況です。財閥系の民族資本（タタが有名です）で一部で工業化は起こっていましたが，決して主産業というわけではありません。

③；インドは戦後間もない時期に独立します。社会主義国家として，国営企業と民間企業の混合経済体制がとられました。工業は主に国内市場向けの輸入代替型が中心で，国内企業が優遇され，外国企業は活動が制限されました。

④；混合経済体制は行き詰まりをみせます。1990年代からは市場開放によって外国企業を迎え入れ，経済成長を遂げます。世界的な重工業国，そしてコンピュータ大国になりつつあります。

［インドの工業］

・鉄鋼業・・・20世紀初頭にジャムシェドプルに民族資本による製鉄所。2000年代以降鉄鋼生産は急増し，現在世界３位。国内の豊富な資源を利用。
・自動車工業・・・1980年代に日本のスズキとインド政府との合弁にて自動車メーカーが設立。現在も自国メーカーであるタタやインディアが中心になり生産活動。主な工業都市はムンバイ。
・ハイテク産業・・・アメリカ合衆国系の企業がバンガロールにコンピュータソフト工場を進出。「インドのシリコンバレー」。現在はムンバイやデリーなど国内の多くの大都市でもハイテク産業が発達。

［インドでハイテク産業が発達した理由］

・アメリカ合衆国と時差が約12時間であるため，24時間体制でコンピュータの管理，ソフトの生産が行える。
・英語が準公用語であり，使用人口が多い。
・１人当たりGNIが低く，安価で技術者が雇用できる。
・インドの主要民族であるアーリア人は数学に強いといわれ，コンピュータソフト開発に有利。
・就学率や識字率は低いが，人口が多いため，技術者の絶対数が多い。

[19]正解；②

非常におもしろい問題ですね。ここでポイントになっているのは「経済特区」という言葉です。経済特区に進出する工場は，繊維工業や機械工業などの労働集約型工業です。安価な労働力を目的として外国から生産拠点が移動します。「金融業」ではありませんね。

なお，金融業がキーワードとなるのは，１人当たりGNIが高い国や地域，都市です。金融業が発達する都市といえば，東京やホンコン（中国の一部ですが，経済は独立しています），シンガポール，ロンドンフランクフルト，ニューヨークなどですね。国でいえば，スイスは銀行が有名ですね。中国でもシャンハイの

証券取引所などは世界的な取引額を誇っているのですが，共通テストにおいては「中国＝金融業」とはいえません。

[20] 正解；②

とくに問題ないでしょう。牛乳は鮮度が重要ですから，ほとんどが国内産です。外国からの輸入はほとんど行われていません。

他の選択肢についても納得の範囲だと思います。しっかり読んでおいてくださいね。

〈***Note***〉